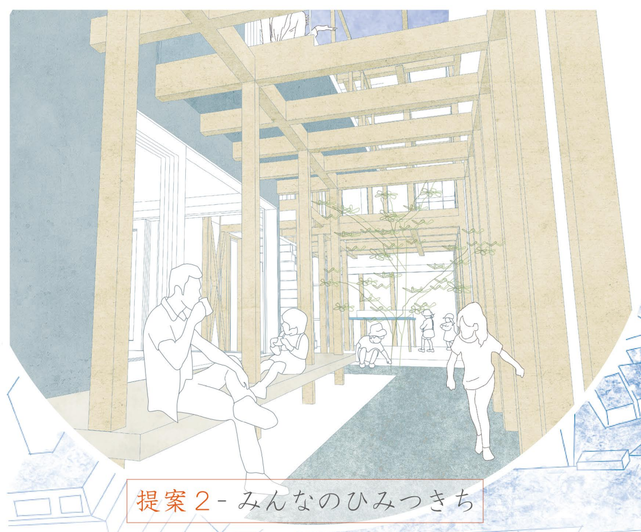
水景を育み、滴る雫

路地尊からはじまる重層的循環

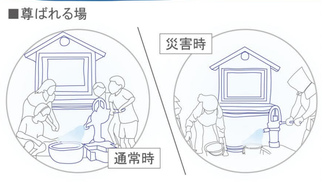






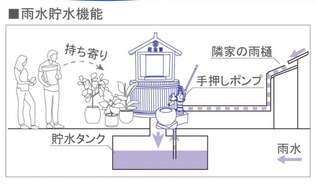
01-1 育まれてきた路地尊（ろじそん）

■尊ばれる場



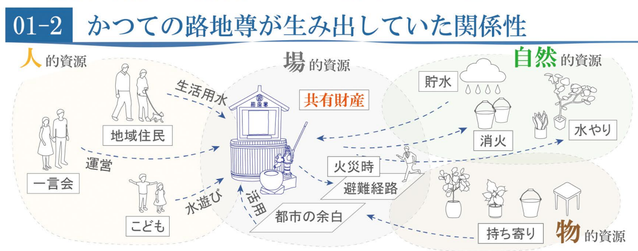
路地尊とは、地域のコミュニティの場であり、通常時は広場、災害時は避難路となる路地を尊ぶ、重層的な関係性を生み出す場である。

■雨水貯水機能



近隣民家の雨樋を通じた雨水貯水機能を持ち、草・花の水やりや子供の水遊びなどの生活用水、火災時の消火等に利用される。

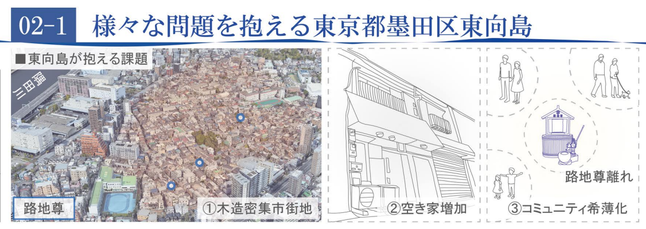
01-2 かつての路地尊が生み出していた関係性



かつての路地尊では、４つの資源のサイクルが営われ、地域の「共有財産」として重層的な関係性を生み出す場であった。しかし、現在、この「路地尊的場」は失われてしまっている。

02-1 様々な問題を抱える東京都墨田区東向島

■東向島が抱える課題



現在の東向島では路地尊が複数点在する一方、かつてのような風景は失われ、まち全体でも重層的な関係性を生み出す路地尊的場が減少している。他にも、木密建物の老朽化による①防災問題や②空き家問題、③地域コミュニティの希薄化など様々な問題を抱えている。

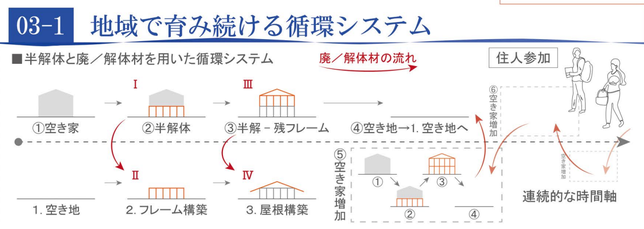
02-2 まちに浸透する路地尊的場の創出



地域住人が皆で手を加え、育て続けていくような、かつての路地尊的場を生み出していく。既存路地尊を活かしながらも、まち全体に路地尊的場がひろがるよう計画する。

03-1 地域で育み続ける循環システム

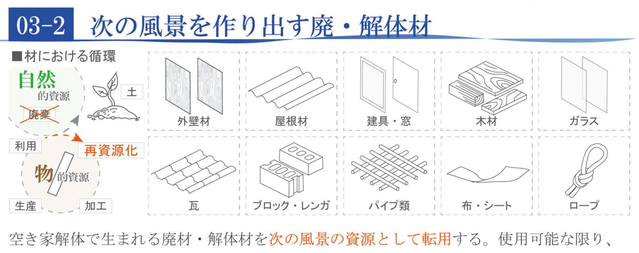
■半解体と廃／解体材を用いた循環システム



空き家のオープンスペース化、空き地の防災倉庫化により、デッドスペースであった両者を地域へ還元、路地尊的場とする事で原風景を取り戻す。また、廃・解体材の活用、解体・構築プロセスへの地域住人参加により、連続的な時間軸の中でまちが更新され続けていく。

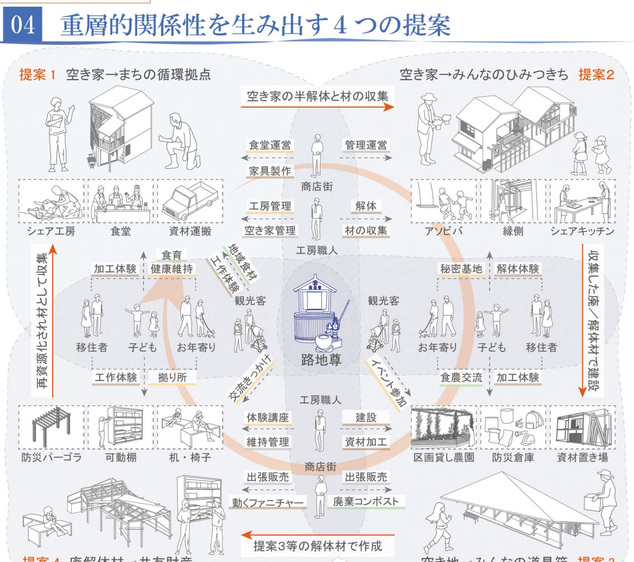
03-2 次の風景を作り出す廃・解体材

■材における循環

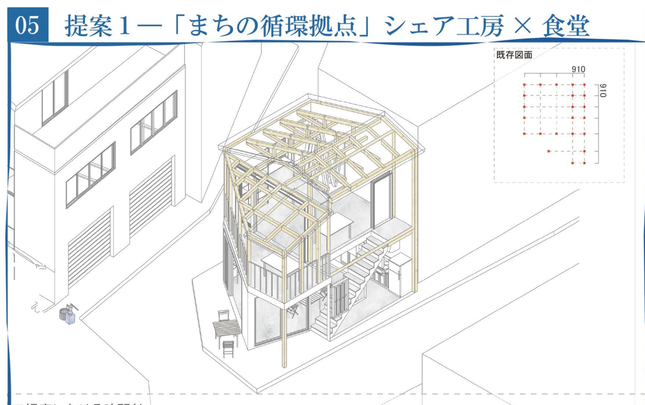


空き家解体で生まれる廃材・解体材を次の風景の資源として転用する。使用可能な限り、材の再資源化を行い、使用限度を迎えた木材等は土にかえす事で自然的資源へとまわし、重層的なサイクルとして展開、資源を跨いだ恒久的なサイクルの創出へとつなげる。

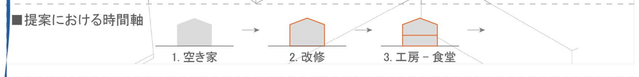
04 重層的関係性を生み出す４つの提案

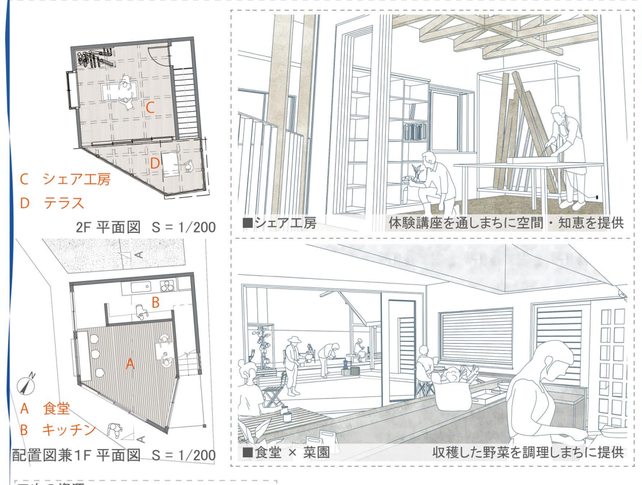


05 提案１—「まちの循環拠点」シェア工房 × 食堂

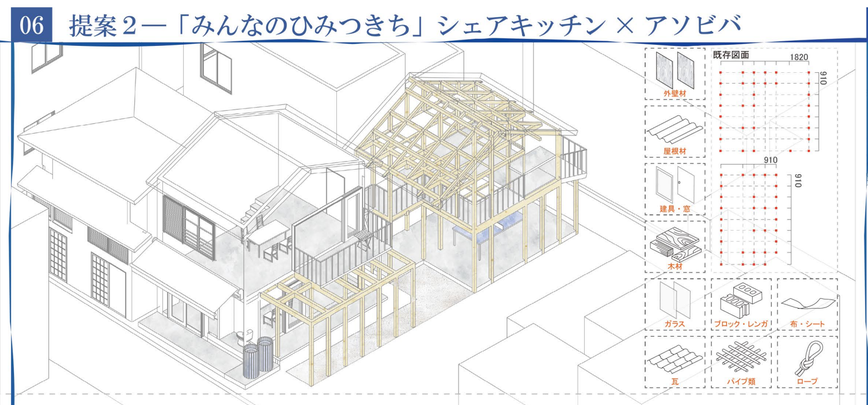


■提案における時間軸

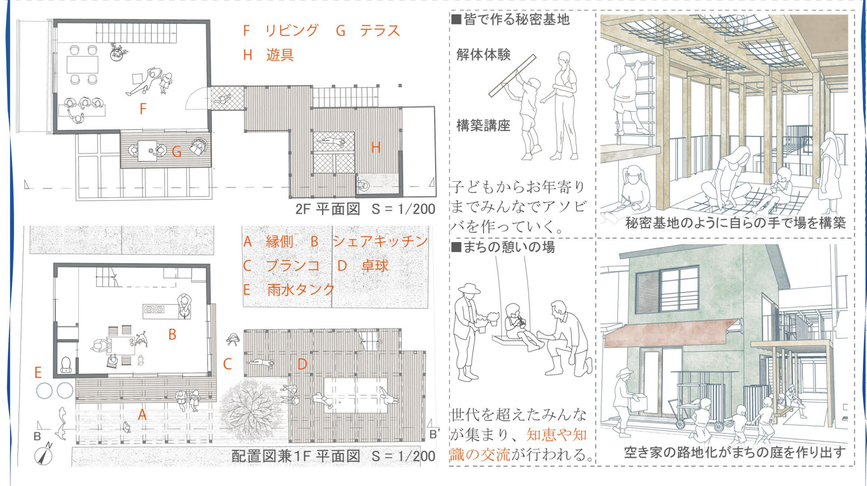




06 提案２—「みんなのひみつきち」シェアキッチン × アソビバ







■皆で作る秘密基地

子どもからお年寄りまでみんなでアソビバを作っていく。

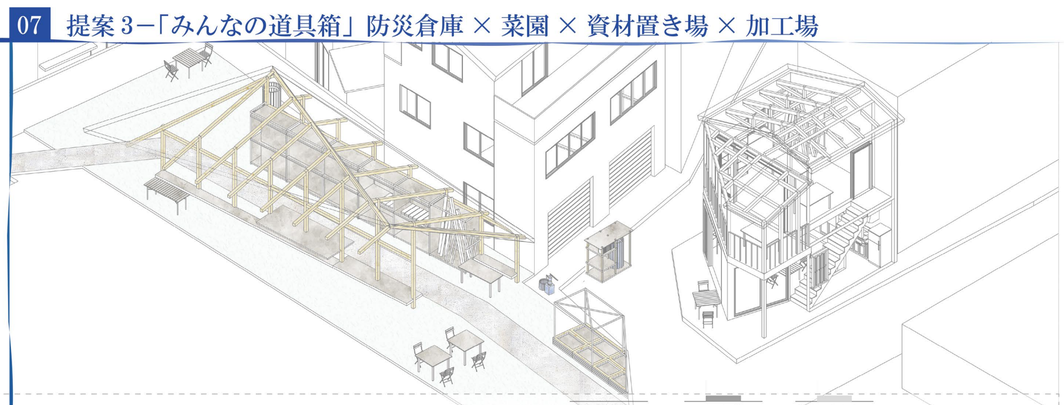
秘密基地のように自らの手で場を構築

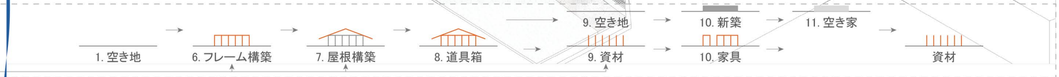
■まちの憩いの場

世代を超えたみんなが集まり、知恵や知識の交流が行われる。

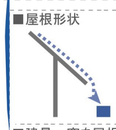
空き家の路地化がまちの庭を作り出す

07 提案３—「みんなの道具箱」防災倉庫 × 菜園 × 資材置き場 × 加工場



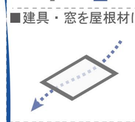


■屋根形状

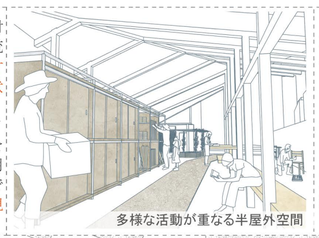


路地尊に対し雨水を流し、供給する屋根形状を採用。

■建具・窓を屋根材に



建具・窓を屋根に活用することで雨水を可視化する。



多様な活動が重なる半屋外空間



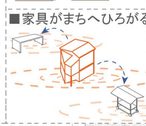
路地尊を活用し雨を顕在化・健康を促す菜園

■区画貸し菜園

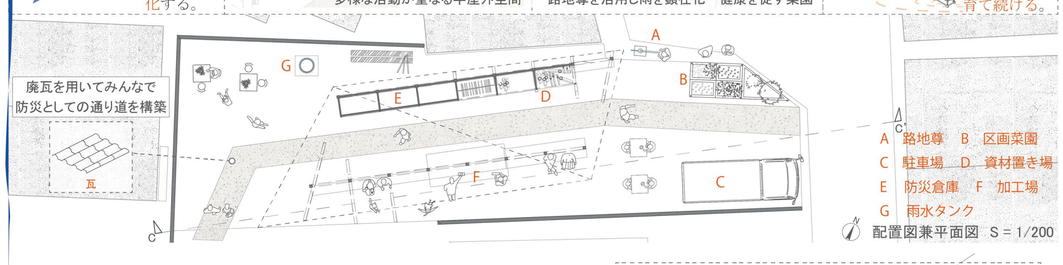


収穫祭で食と雨水へ感謝。コミュニティ形成、食堂で振舞われる。

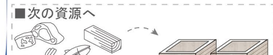
■家具がまちへひろがる



工房・加工場でみんなで作ったものがまちに点在、育て続ける。



■次の資源へ

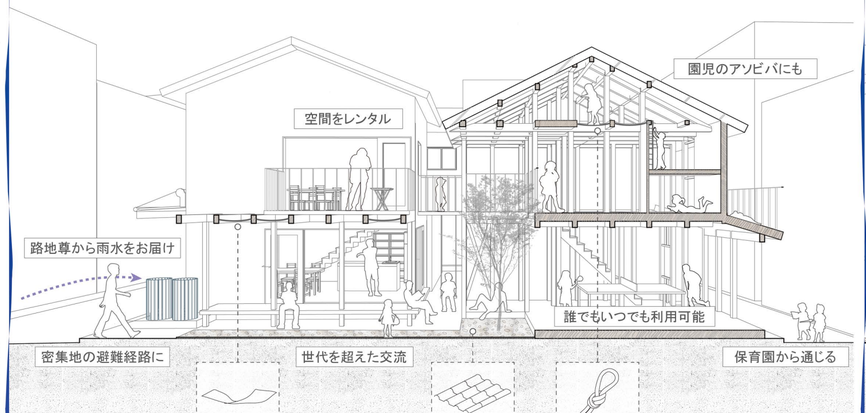


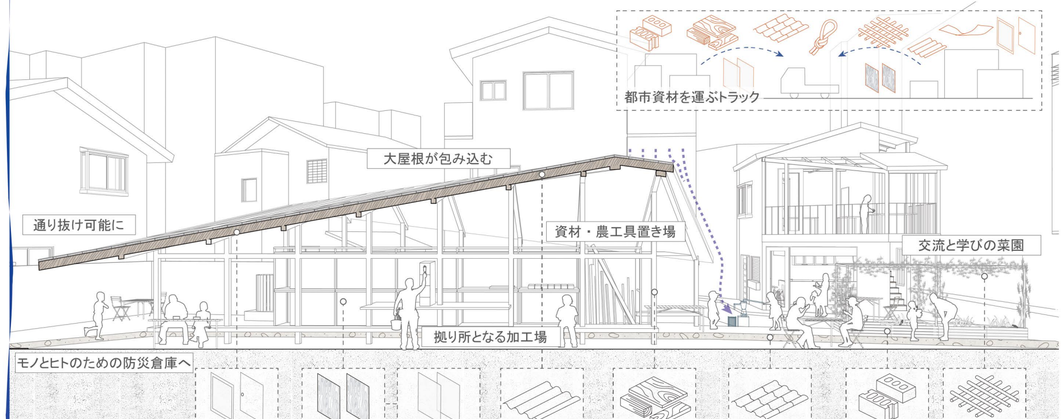
不朽材や食堂廃棄物はコンポストに。

■循環拠点として



循環システムの発展に伴い拡張。





08 提案４—「共有財産の育み」廃・解体材 × 工房職人 × 地域住民

■徐々に形成される「共有財産」

■ヒトに尊ばれる場へ

自分たちの手で育み続けることがヒトやモノ、場に対する愛着の環につながり、重層的循環を生み出す場を築いていく。

09 X 年後も人・材の連鎖によりひろがる重層性

柴田裕斗 hrt.sbt20020410@gmail.com